

## 予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

## 事業名 教育用生成AIを活用した授業支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8666)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,800 千円 (前年度予算額： 10,800 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

| 区 分 | 事業費    | 財 源 内 訳    |            |            |            |     |     |     |            |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
|     |        | 国 庫<br>支出金 | 分担金<br>負担金 | 使用料<br>手数料 | 財 産<br>収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般<br>財 源 |
| 前年度 | 10,800 | 5,400      | 0          | 0          | 0          | 0   | 0   | 0   | 5,400      |
| 要求額 | 10,800 | 5,400      | 0          | 0          | 0          | 0   | 0   | 0   | 5,400      |
| 決定額 |        |            |            |            |            |     |     |     |            |

## 2 要 求 内 容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

社会や経済の急速な変化に対応しなければならない現代においては、情報活用能力や問題解決能力、コミュニケーション能力などが求められている。これらの能力を育成する基礎となるのが言語能力であり、課題に対して自らの考えをまとめ、論理的に表現する力を育成する必要がある。

しかしながら、高等学校においては、その論理的に表現する力を育成する生徒への添削指導に時間がかかり、生徒が自分の思いや考えを形成し、文章によって表現する言語活動を充実されることに課題があった。

そこで、授業支援ツールとして教育用生成AIを活用し、添削指導の即時性を向上させることで、文章によって表現する言語活動の指導を充実させ、書く力の向上を目指す。

## (2) 事業内容

・教育用生成AIを小論文、英作文の指導における授業支援ツールとして活用し、添削指導を効率化するとともに、意見文、英作文等の指導機会を増加する。

・教育用生成AIは生徒の意見文、英作文等の一次添削案の作成に利用する。

・教育用生成AIが作成した添削案を教員が確認、修正し生徒の指導に活用する。

・利用を希望する学校に対してアカウントを付与し、有効な活用方法の開発・実践を進める。

(3) 県負担・補助率の考え方

国負担 1/2、県負担 1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額     | 事業内容の詳細        |
|------|--------|----------------|
| 使用料  | 10,800 | 教育用生成AIシステムの利用 |
| 合計   | 10,800 |                |

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次岐阜県教育振興基本計画

施策Ⅱ 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成

8 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成

(2) 国・他県の状況

実績なし

(3) 後年度の財政負担

第4次岐阜県教育振興基本計画による

(4) 事業主体及びその妥当性

県立高等学校の生徒に関する事業のため、県が実施する

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

教育用生成AIを国語科・英語科の添削指導における授業支援ツールとして利活用するにあたって、活用の具体や利便性、留意点等について実践研究や検証を行い、実践事例や成果、課題について普及を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名                                  | 事業開始前<br>(R6) | R7年度<br>目標 | R8年度<br>目標 | R9年度<br>目標 | 終期目標<br>(R10) | 達成率 |
|--------------------------------------|---------------|------------|------------|------------|---------------|-----|
| 教育用生成AIを活用して指導する言語活動のテーマ             | —             | 10         | 15         | 25         | 25            |     |
| 自分の考えがうまく伝わるよう文章で表現できるようになったと思う生徒の割合 | —             | 67%        | 70%        | 80%        | 90%           |     |

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

|       |  |
|-------|--|
| 令和7年度 | <div></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |
| 令和8年度 | <div></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |
| 令和9年度 | <div></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

|  |   |
|--|---|
| <b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b><br>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない   |   |
| <b>(評価)</b><br>3   | 学習指導要領改訂に向けた諮問において「学びの自己調整や教師の指導の在り方」および「生成AIの活用を含む外国語教育の在り方」が示されており、教育現場におけるAI活用の重要性は一層高まっている。 |
| <b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b><br>3：期待以上の成果あり<br>2：期待どおりの成果あり<br>1：期待どおりの成果が得られていない<br>0：ほとんど成果が得られていない |   |
| <b>(評価)</b>  |   |
| <b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b><br>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている   |   |
| <b>(評価)</b>  |   |

### (今後の課題)

|  |
|--|
| <b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b><br>教育用生成AIを国語科・英語科の添削指導における授業支援ツールとして活用することが、生徒の言語能力の育成のために効果的であるかについて、検証していく必要がある。 |
|--|

### (次年度の方角性)

|   |
|---|
| <b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b><br>令和7年度及び8年度の活用状況やアカウントの付与を受けている職員を対象にしたアンケート結果等を踏まえて、令和9年度以降は生徒数の拡大を検討する。 |
|---|

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

|                            |  |
|----------------------------|--|
| 組み合わせ予定のイベント<br>又は事業名及び所管課 |  |
| 組み合わせて実施する理由<br>や期待する効果 など |  |

【〇〇課】